

2 0 2 5 年 度

入 学 試 験 問 題

国 語

注 意

- ・問題は①から④までで、17ページにわたって印刷してあります。
- ・試験時間は50分です。
- ・声を出して読んではいけません。
- ・解答用紙はA4判のオモテとウラに分かれてあります。
- ・答えは、問題の指示に従って、解答らんの決められた場所に濃く、はっきりと書きなさい。
- ・答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- ・字数指定のある問いはすべて、句読点・記号も一字と数えるものとします。
- ・答えはすべて別紙解答用紙に明確に記入し、解答用紙のみを提出しなさい。
- ・解答用紙には受験番号、氏名を記入しなさい。
- ・数字や文字は枠からはみ出さないように正しく記入しなさい。

(正しい例)

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

(誤った例)

1	2	3		5
---	---	---	--	---

学校 東洋大学
法人

東洋大学京北中学校

1 次の問いに答えなさい。

問一 ぼう線部のカタカナを漢字に直しなさい。解答らんは解答用紙のウラ面です。

- (1) 会社のソンボウをかけた企画だ。
- (2) 彼はホガらかな性格の持ち主だ。
- (3) 記念にシヨクジユを行う。
- (4) 市のチヨウシヤが建てられた。
- (5) コウシユウ道德を身につける。

問二 アゝ力のぼう線部のうち「来る」という意味を持つものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア これからバスが参ります。
- イ 先方の会社には、明日の10時に参ります。
- ウ 早くこちらへいらつしやい。
- エ 明日はどこへいらつしやるのですか。
- オ 私がそちらにうかがいます。
- カ むこうの様子をうかがう。

問三 次の文の文法的な説明として最も適切なものをアゝオから選び、記号で答えなさい。

昨日、この手紙を父さんと書いた。

- ア 「書いた」は目的語である。
- イ 「昨日」は「父さんと」を修飾する。
- ウ 問題文の中に述語はない。
- エ 問題文の中に主語はない。
- オ 「この」は独立語である。

問四 次の文のぼう線部と同じ意味を持つ語として最も適切なものをアゝオから選び、記号で答えなさい。

雪の降る日は外出しない。

- ア 気になったのは弟のことだ。
- イ その小説は祖父の愛したものだ。
- ウ 母の気持ちが私にも分かる。
- エ そのスマートフォンは姉のだ。
- オ 家の庭にリングの大きなのがなる。

問五

(1)(2)のぼう線部と同じ意味をもつ漢字として最も適切なものをそれぞれア～オから選び、記号で答えなさい。

(1) 細道

ア 細部

イ 子細

ウ 細工

エ 委細

オ 細身

(2) 実行

ア 旅行

イ 行進

ウ 決行

エ 運行

オ 飛行

問六

(1)(2)の俳句によまれている季節をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

(1) 閑かさや岩にしみいる蝉せみの声 松尾芭蕉

(2) 菜の花や月は東に日は西に 与謝蕪村

問七

次の短歌のぼう線部は何と読むのが最も適切ですか。ア～オから選び、記号で答えなさい。

観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我われには一生ひとよ

栗木京子（『栗木京子歌集』）

ア いちにち

イ ひとひ

ウ いちじつ

エ ついたち

オ いちご

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

放課後、^{しずくだ}雫田さんが僕の席までやってきた。

「^{*1}ブラマン、持ってきてくれた？」

屈託^{くつたく}のない、明るい表情。

①僕は、雫田さんを直視することができなかった。

五冊の漫画^{まんが}が入った紙袋^{かみぶくろ}を渡す。笑えない。あの公園のときみたい
に接することができない。

漫画を受け取りながら、雫田さんがちよつと顔を傾^{かたむ}ける。

「あれ？ どうした？」

「……いや」

僕は苦笑いをしながら言った。

「頭よかったんだなと思って」

ぽかんとしている雫田さんに対して、思わず嫌味^{いやみ}っぽい言葉が出る。

「95点なんて、すごいじゃん。訂正^{ていせい}しないで黙^{だま}ってれば1位だったの
に」

「ああ、そのこと」

さつくりと言われて、むらつと怒^{いか}りが湧いた。

勉強できるくせに、できないふりしてたんだろ？ 僕のことバカに
してたのかよ。

いるよな、そういうヤツ。さも遊んでるふうに見せかけて、相手を
油断させて、ちゃっかりいい成績取って。おまけに誠実さもアピール
しちゃって。

抑^{おさ}えきれず、つかかかるといふような口調になってしまう。

「地理、めっちゃ苦手って言ってたじゃないか」

「苦手だよ」

雫田さんは事もなげに言った。

「苦手だから、めちゃめっちゃ、めっちゃ勉強したんだよ」

②雫田さんの目が、僕を射る。そして彼女^{かのじよ}はこう続けた。

「誰^{だれ}かに勝ちたかったんじゃないかって、私が、がんばりたかったんだ」
はつと、胸を打たれた。

僕は言葉をなくし、雫田さんを見る。

③雫田さんはちらつと目を泳がせ、僕の返事も待たずに「じゃあね」
と足早に去ってしまった。打たれたままの胸はじりじりと鈍^{にぶ}く痛み、
僕はしばらくぼんやりと突っ立っていた。

公園へ向かう足取りは重かった。

今の僕に、愚痴^{ぐち}を聞いてくれるような人はいない。せめてカバヒコ^{*2}
のほのぼのした姿に触^ふれたかった。どうかまた頭のいい自分に戻^{もど}して
くれと願^{がん}を掛けたかった。

会話を続けようとせず、さつさと帰ってしまった雫田さんの後ろ姿
が脳裏に焼き付いて離^{はな}れない。

彼女はもう、僕と話す気もないってことなんだろう。あんないやな
言い方をしてしまったから当然だ。

でも、だって、こんなことって。

釈然^{しゃくぜん}としないまま歩いていたら、汗^{あせ}がにじみ出てきた。七月も半ば
に入っ、今日は特に蒸^むし暑い。

喉^{のど}が渴^{かわ}いた。ちようどサンライズ・クリーニング^{ひびし}の庇^ひが見えてき
て、僕は自動販売機^{はんぱいき}の前に立つ。

コイン投入穴に百円玉を二枚入れ、カルピスウォーターのボタンを押した。がたと音がしてペットボトルが受け取り口に落ちてくる。同時に、お釣りが落ちる小気味いい音も軽く響いた。

「……あれ」

カルピスウォーターは百五十円だ。なのに、お釣りを取ろうと返却口に指を入れたら硬貨が二枚あたった。

ふたつの五十円玉。

前の人が取り忘れていっちゃったんだ。僕はその二枚を手のひらに載せる。

ラッキー。

そのまま財布に収めてしまえば、誰も気づかない。五十円ぐらいじや別に、忘れていった落とし主も困ったり傷ついたりしないだろう。

財布を開けようとして、ふと、雫田さんのことを思い出した。

97点から95点への自己申告。

言わなければ、絶対わからなかったはずなのに。

1位のままでいられたのに。

——誰かに勝ちたかったんじゃないなくて、私が、がんばりたかったんだ。

「かなわないよなあ……」

僕は五十円玉をひとつだけ財布に入れ、もうひとつは手のひらに収めた。

空いているほうの手でカルピスウォーターを持ち、ごくごく飲む。そしてちょっと考えたあと、ガラス張りのドア越しにサンライズ・クリーニングをのぞいた。

ビニールにくるまれた衣服たちにうずもれるようにして、カウンタ

ーの向こうにおばあちゃんがひとり、座っていた。銀のかかったような白髪で、気持ちいいくらいさっぱりしたショートヘアだった。雫田さんの言ってた、カバヒコの腰をなでたらヘルニアが治ったおばあちゃんかもしれない。

僕はドアを開けた。おばあちゃんがふいっと顔を上げる。

「すみません。その自動販売機、前の人のお釣りが残ってたみたいで」

そう言つて五十円玉を差し出すと、おばあちゃんは「へえっ！」とすつとんきような声を上げた。

そして僕のことを頭のとっぺんから足先までじろじろとねめまわし、五十円玉を受け取るところ言つた。

「美冬ちゃんと同じ学校の子？」

「え」

「雫田美冬ちゃん」

おばあちゃんは自分の襟元のあたりにとんとんと指を当てた。僕のシャツについている校章を指しているのだろう。

「あ、ええ。まあ」

「雫田一家は昔からうちの常連さんだから。美冬ちゃん、いい子だよね」

「……………そうですね」

「バイト、忙しくしてるんだろ？」

「そうだと思います」

話が長くなりそうだ。適当に聞き流して店を出ようとしたら、おばあちゃんが五十円玉を引き出しにしまいながら言つた。

「あの子、兄弟姉妹、合わせて六人いるんだよ」

六人？

思わず目を見開いた。そんなに大家族なのか。

「高校にかかるお金はできるだけ自分で稼^{かせ}ぐって言うてさ、えらいもんだよね。そのせいで成績悪いって言われたくないからって、勉強も必死でね。あの狭^{せま}い団地でひとり部屋もないのに、よくやってるよ」
殴^{なぐ}られたような気分だった。

なんだよ、それ。できすぎだろ……。

いろんな気持ち^{きもち}が混ざり合^あって、ぐちゃぐちゃになる。雫田さんへ

の X と嫉妬^{しつと}。自分への Y と保身。

店のドアが開き、大きな紙袋を提^さげた女の人が入ってきた。三つ編みを一本に束ねているその人に「いらっしやい」とおばあちゃんが声を上げた。お客さんだ。

僕は黙って店を出る。

「頭脳修復」なんて、軽々しくカバヒコにお願いする気持ちになれなかった。僕はそのまま来た道を戻り、公園に行かずに家に帰った。

(中略)

翌朝、僕は日の出公園に向かった。

土曜日の早朝だからか、人通りが少ない。いつにも増して公園は閑散^{かんさん}としていた。

「カバヒコ」

あの日、雫田さんがそうしたみたいに、僕はカバヒコを呼んだ。

返事があるはずもないのに、カバヒコはちゃんと僕を見た。そんな気がした。

僕はカバヒコの頭をなでる。両手で、何度も何度も。

よしよし、よしよし。いい子、いい子。

待つてろよ、今きれいにしてやるからな。

僕はそっと、カバヒコにまたがった。

そしてナップザックからポケットティッシュと歯磨き^{みが}セットを取り出す。洗面台の引き出しに入っていた、どこかのホテルでもらったアメニティだ。

小さなチューブから歯磨き粉を絞り出し、カバヒコの後頭部に書かれた「バ」の文字にのせる。少し緊張^{きんちょう}しながら、歯ブラシで軽くこすってみた。

「……………やった」

思わず笑^えみがこぼれる。

マジックペンの黒は消え去り、カバヒコのくすんだオレンジ色の地が現れた。僕は逸^はる心を抑えながら「カ」にも歯磨き粉をのせ、あまり力を強く入れないように注意しながら歯ブラシを動かした。

消えた。

消えた、カバヒコから「バカ」の文字が。

ティッシュで歯磨き粉をすっかりぬぐってしまおうと、僕はもう一度、今度は大きな声で「やった！」と叫^{さけ}んだ。

もう誰にもバカなんて言わせないぞ。

この喜びを雫田さんと分かち合いたかった。だけど次の瞬間^{しゆんかん}、気持ち^{きもち}が沈^{しず}んでいく。

……………もう、嫌^{きら}われちゃったよな。

ブランコに目をやると、頬^ほを紅潮^{こうちょう}させながらぐんぐん漕^こいでいた雫田さんが思い浮^うかばれた。

放電^{じゆうでん}と充電。

そうやって、自分をコントロールして、立て直して。

きつと彼女は、僕には想像もできない努力をしてきたんだろう。家族や周囲を思いやりながら。

僕はどうなんだ？ たいしてがんばりもしないで、ふてくされて。

本当の僕はバカじゃない、もつとできるはずだって。

ああ、恥^はずかしい。本当に恥^はずかしい。

僕が修復すべきは、この卑屈^{ひくつ}さや傲慢^{ごうまん}さじゃないか。

*4 アレック先生と話したくて一生懸命^{いっしょうけんめい}だった僕は、あんなに英語が楽しかったのに。ただただ、学びたかったのに。

カバヒコの頭をそつとなるで。

⑤ カバヒコ、頼^{たの}む。

ねじ曲^{まが}がつてガチガチな僕のこの頭を、リカバリーしてくれ。

僕はカバヒコにまたがったまま、両腕^{りょううで}をカバヒコの頭に回して頬をつけた。

カバヒコの後頭部の、優しい丸み。ミントの匂^{にお}いが残るそこは、ひんやりしていて気持ちよかった。

家に帰ると僕は、すでに返^{かえ}ってきている答案用紙^{とうあんようし}を揃^{そろ}えてリビングに行った。

母さんが部屋に掃除機^{そうじき}をかけている。父さんは庭にいらしかった。掃除機のスイッチをオフにしたタイミングで僕が声をかけると、母さんは「ん？」と顔をこちらに向けた。

「話があるんだ。今、いいかな」

母さんはちょっとこわばった面持ち^{おももち}で、「え、なに？」と苦笑いした。

テーブルの上に、答案用紙を並べる。

数学46点、地理57点。

「平均点は、数学52点、地理64点でした」

「え」

母さんが少し首を突き出す。怒^{おこ}るよりも手前で、まずびっくりしている感じだった。

「平均点にもいかなかった。僕の努力不足」

そして、数日前に見せた89点の英語の答案用紙。

母さんが見ている前で、僕は89という数字に赤ペンで二重線を引いた。

「嘘^{うそ}をついて、ごめんなさい。自分で書き換えたんだ」

母さんが目を見開いた。

僕はその隣^{となり}の余白に、大きく赤ペンを走らせる。

61。

修復。

そうだ、これが真^{まこと}のリカバリー^⑥。

元の通りに直したその答案用紙を、僕は母さんに渡す。

「本当の点数です」

母さんは答案用紙を持ったまま、赤い数字と僕の顔を交互^{こうご}に見ていた。言葉が出ないという様子だった。

「僕は勘違^{かんちが}いしてた。自分は頭がいいんだって。やらなくてもできるって」

でも違う。

僕は推薦入試^{すいせん}に合格するまで、あの場所でやるべきことをしっかりとやってきたんだ。

でもそのあと、怠慢^{たいまん}に慣れてしまっていた。みんなが必死に勉強し

ている間、僕はぐうたらあぐらをかいていた。
新生活の中で、僕はまだ、何もしていない。

もつともつと、積極的に勉強すること、この先の自分について考えること、友達と話をする事。

高みを目指して入ったこの学校に、ふさわしいだけの努力を。

「僕、ここでまたがんばってみるよ」

勝ち負けじゃない。自分が、がんばりたいから。

母さんはふつと頬を緩ませる。そしてようやく言葉を放った。

「結果というよりもね、母さんは奏斗がそんなふうになんばつてることが嬉しいのよ」

じわつと胸が熱くなって、僕はあらためて思い出した。母さんは僕に、必ず「がんばったね」と言ってくれることを。

そのとき、父さんが庭から顔を出した。

「ダリアの花が咲いたよ、来てごらん」

父さんの顔に、満面の笑みが広がっている。

僕と母さんも、庭に出た。

咲いたばかりのダリアは、みずみずしい花びらを開かせていた。きつと、父さんの気持ちを受け取っているに違いない。

ただ愛するだけ。それだけ。心をこめて。

(青山美智子『リカバリー・カバヒコ』光文社)

*1 ブラマン……作中の架空の作品で、アニメ化もされた人気のコミック『ブラマン・マンホール』のこと。

*2 カバヒコ……近所の公園にある、ところどころ塗料がはげえたり落書きされたりしているカバのアニマルライドの呼び名。ケガや病気など治したい部分と同

じ所をさわると回復するといううさから「リカバリー・カバヒコ」とも呼ばれている。

*3 ヘルニア……近くを通る神経を圧迫して痛みやしびれなどの症状を引き起こす病気。

*4 アレック先生……かつて「僕」が通っていた幼児用英会話スクールの先生。

問一 ぼう線部①「僕は、雫田さんを直視することができなかった」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として適切でないものをア～オから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 地理が苦手だと話していたのに、「僕」の57点に対し95点という高得点を取った雫田さんに対し裏切られたような気持ちがしたから。

イ 雫田さんが「僕」に近づいてきた理由が、仲良くなることでお目当ての漫画を誰よりも早く借りたかったからだとわかり、悲しかったから。

ウ 雫田さんは「僕」と同じで勉強が苦手だと思い込んでいたが、それは単に「僕」に話を合わせていただけで、自分を見下していたのではないかと思ったから。

エ 雫田さんに「誰かに勝ちたかったんじゃないやなくて、私が、がんばりたかったんだ」と思ってもよらない発言をされ、「僕」は強いショックを受けたから。

オ 雫田さんは漫画を「僕」から借りたり、たいして勉強していないふりをしたりすることで、「僕」をわざと油断させようとしていたのではないかと考え、腹が立ったから。

問二 ぼう線部②「雫田さんの目が、僕を射る」という表現から読み取れることとして最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 雫田さんの正直な思いとうそやごまかしのないまっすぐな視線を受けて「僕」が思わず感動した、ということ。

イ 点数の間違いを申告したことを否定された雫田さんが「僕」への怒りをあらわにしている、ということ。

ウ 雫田さんの発言と力のこもったまなざしから真剣でまっすぐな思いを「僕」が感じ取った、ということ。

エ 「僕」が思い違いをしたまま理解を示してくれないことに対して雫田さんが抗議している、ということ。

オ 苦手科目から逃げただけのあなたとは違う、と目で責める雫田さんに「僕」が圧倒された、ということ。

問三 ぼう線部③「雫田さんはちらっと目を泳がせ、僕の返事も待たずに『じゃあね』と足早に去ってしまった」とありますが、このときの雫田さんの行動は、時計を見て時間を確認し、バイトの時間が迫っていたために急いでいただけであったことが後でわかります。しかしそれまで「僕」は雫田さんの気持ちを誤解していました。「僕」はどのように思い込んでいましたか。解答らんに合うような形で本文中から二十字以上、二十五字以内でぬき出して答えなさい。ただし句読点も一字とします。

「」と思い込んでいた。

問四 ぼう線部④「おばあちゃんは『へえっ!』とすつとんきような声を上げた」とありますが、このときの「おばあちゃん」の心情として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 店をよく利用してくれている美冬からたびたび話題にあがっていた男の子はこの子だったのだ、と気になっていたことがわかってすっきりした気持ち。

イ 自動販売機に前の客のお釣りが残されていたからといって、わざわざそのお金を正直に届ける子がいたということに対する驚きの気持ち。

ウ 最近の不景気でめっきり客足が途絶えていたこともあり、予測していなかった急な来客に対してどうしていいかわからずあわてる気持ち。

エ 自分の経営する店の前に置いている自動販売機に不備があったなどと苦情を言われるのではないかと不安になり、話をそらしたいという気持ち。

オ どんな客なのかと「僕」のことを値ぶみするかのように見ることとで、今後クリーニング店の常連客になってくれそうか見極めたという気持ち。

問五

をア～オから選び、X、Yに入ることばの組み合わせとして最も適切なものを記号で答えなさい。

ア	X—信頼 しんらい	Y—失望
イ	X—敬意	Y—苛立ち いらだち
ウ	X—憎しみ にくしみ	Y—後悔 こうかい
エ	X—尊敬	Y—称賛 しょうさん
オ	X—憧れ あこがれ	Y—慰め なぐさめ

問六

ほう線部⑤「カバヒコ、頼む。ねじ曲がってガチガチな僕のこの頭を、リカバリしてくれ」とありますが、この発言にこめられた「僕」の気持ちの説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 「バカ」という落書きを必死な思いで消してやったんだから、その見返りとして頭がよくなって成績が上がるようにしてほしい、という気持ち。
- イ カバヒコの優しい丸みを帯びた頭のように、雫田さんにライバル心をむき出しにしないですむような穏やかな考えをもてるようにしてほしい、という気持ち。
- ウ テストの平均点を気にするあまりにあれこれ考えこんでしまうのではなく、楽しいから学びたいと純粋に感じられるようにしてほしい、という気持ち。
- エ 異性として気になっていた雫田さんを取り巻く状況がしだいに明らかになっていくにつれて、あやふやになっていく自分の気持ちを整理してほしい、という気持ち。
- オ たいした努力もせずに現実から目をそらしていじけているだけの自分に気づいたため、そんな自分から抜け出し変われるようにしてほしい、という気持ち。

問七

次は、先生の「ほう線部⑥『真のリカバリ』」に着目しながら、この話を読んで気づいたことや考えたことを発表し合ひましょう」という声かけにそって生徒たちが自由に発言している場面です。この中で、本文の内容をふまえ、最も適切な発言をしているものをア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A「『真のリカバリ』とは、順位や点数などをまわりと比べて気にしていた『僕』が、関わった人々との交流をおしで、現実から目を背けず^{そむ}に自分自身でがんばって努力することの大切さを再認識できたことから、ごまかしたテストの点数を正しく訂正^{ていせい}した、ということですね。私も逃げずに自分と向き合うことを大切にしていきなと思いました。」

イ 生徒B「『バカ』と落書きされているカバヒコと、成績がどんなん落ちていく自分の姿を重ね合わせた『僕』は、必死に落書きを消すことで自分自身のあやまちを正そうとしたんですね。『バカ』が消えればカバヒコの修復力も戻るはずだから、これからは自然と『僕』の学力が向上していくという前向きな気持ちを『真のリカバリ』と表現しているのかな、と考えました。」

ウ 生徒C「地理のテストの点数をめぐって早とちりをしてしまった『僕』が、気持ちのままにきつい言葉を雫田さんにぶつけてしまったことで二人の関係がぎくしゃくしてしまいましたよね。でもクリーニング店のおばちゃんのおかげで『僕』は雫田さんを取り巻く状況を知り、その結果雫田さんとのわだかまりがとけたことが『真のリカバリ』なのだと思います。」

エ 生徒D「『真のリカバリ』とは、『僕』が雫田さんの影響^{えいきやう}を受

けてあきらめずにがんばろうという気持ちになったことを言い表しているのかな? と思います。同時に、今度のテストでは絶対に雫田さんを超えてやる、という強い決心が読み取れました。私もよきライバルを得て、常に向上心をもって何事にも全力で取り組んでいくことが大事だなんて、あらためて感じました。」

オ 生徒E「さわった場所を回復させてくれるという『リカバリカバヒコ』との決別が『真のリカバリ』が意味していることだと考えます。がんばる『僕』の姿勢を応援^{おうえん}してくれる『父さん』や『母さん』の愛情にこたえるためにも、公園でむだな時間を過ごしたりせずに今と向き合って努力していつてほしいなと、私も読みながら自然と『僕』を応援していました。」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

本文に先立つ部分で筆者は、ツイッター（現「X」）やインスタグラムなどのソーシャルメディアの特徴として、多様な背景を持った人々がある程度対等に語ることのできるサービスである点を挙げています。

ずっと以前、とある会議に参加したことです。その会議では、ある女性の業務上での失態が厳しく批判されていました。そのとき、年配の男性参加者が「まあ、女のなんだし、そんなに厳しく責めなくても」という発言をしました。すると別の女性参加者がすぐさま「その発言、撤回してください」と厳しい口調で反論したのです。

この女性参加者はなぜ、男性参加者に発言の撤回を求めたのでしょうか。大きなミスをして、女性だという理由で大目にみてもらえるなら、女性としてはむしろ有利になるとも考えられます。しかし、「女性なのだから失敗しても批判されるべきではない」という発想は、「女性には重要な業務を任せるべきではない」という発想と表裏一体です。女性の側から発言の撤回を求める声が上がったのは、女性に対等な立場にあることを否定する論理がそこに含まれていたからにほかなりません。その男性参加者がある種の「やさしさ」によって先の発言をしたことに疑いはないのですが。

ここから言えるのは、公共的なコミュニケーションにおいて自らの存在を尊重されるためには、自身の言動に責任をもち、場合によっては批判も甘受しなければならぬということです。責任や批判を引き

受けない立場に身を置く限り、他の参加者がその仕事や発言を尊重するのは難しくなります。

別の例を挙げるなら、自分の子どもが大人に暴言を吐いたとき、親がその場を切り抜けるための方法の一つが「子どもの言うことなどで、気にしないでください」という釈明です。これは、元の発言者（子ども）が **A** のを強調することで、暴言がもつ意味を否定しているとの解釈できます（ちなみに私は幼いころ、大人に暴言をたびたび吐いて親を慌てさせたそうです）。

以上のように、ソーシャルメディアを公共的なコミュニケーションの場としてみなすのであれば、誰が発言したのかということよりも、その内容を重視する必要があります。そして、その内容に問題があるのなら、批判される必要も出てきます。対等だというのは、まさにそういうことなのです。

しかし、中高生から高齢者まで、生活に困窮する人から大富豪までが存在する空間において、そのような対等性を想定することにはやはり無理があるかもしれません。実際には、それぞれのユーザーが置かれている立場の違い、言い換えるならソーシャルメディアの外にある社会関係がコミュニケーションに何らかの影響を与えるのは避けられないからです。

そもそも、ソーシャルメディアが「ソーシャル」である以上、そこから社会関係の要素を抜き取ることは不可能です。人びとがもつ社会関係をもとにつながりが生み出されているラインやフェイスブックのようなSNSは言うまでもなく、リアルな社会関係とは切り離された関係が生まれやすいツイッターやインスタグラムであってもそれは変わりません。多くの人が、^①見ず知らずの匿名アカウントよりも、有名

政治家や芸能人のアカウントをフォローするのも、すでに存在する社会関係があつてのことです。

けれども、対等性に基づく公共的なコミュニケーションとそうした社会関係との相性は、控えめに言っても良くありません。政治哲学者のハンナ・アレントは、古代ギリシャの都市国家で優れた民主政治が行われていたのは、市民がそれぞれの社会関係から切り離された状態で話し合いを行っていたからだと論じています（それが可能だったのは、市民の暮らしが奴隷によって支えられており、私生活を心配する必要があまりなかったからではあるのですが……）。そこで次に、その相性の悪さがソーシャルメディア上でどのような問題を引き起こすのかをみていくことにしましょう。

改めて言うまでもないことですが、世の中にはさまざまな立場の違い、不公平、不均衡が存在しています。たとえば経済についてみると、日本でも「格差社会」という言葉がすっかり定着しました。日本ではごく一部の富裕層がさらにリッチになっていくといった現象は生じていないものの、所得の低い層がさらに貧しくなっていくという「低所得層の貧困化」が起きていると言われています。

加えて、経済的に苦しい家庭に生まれ、学歴の面でハンデを負うと、より高い社会・経済的地位へと上昇するのが難しくなるだけではなく、そこで生まれた格差が世代を超えて受け継がれてしまうとの指摘もあります。生まれついた家庭によってその後の人生のチャンスが大きく変わることを表す「親ガチャ」という言葉が注目されたのも、記憶に新しいところです。

ジェンダーや国籍、肌の色などを理由とするマイノリティへの差別や偏見も依然として根強く、マジョリティからはみえにくいところで

仕事や生活でのさまざまな困難に直面しています。

そして、このような社会関係に起因する問題は、当然、ソーシャルメディアにも入り込んできます。数年前、「子どもの貧困」問題がメディアで報じられたさい、そこで取り上げられた女子高生がツイッターなどで激しいバッシングを受けるということがありました。（中略）その一方で、ソーシャルメディアの形式の対等性が、社会関係に起因する不平等、不均衡とは必ずしも合致しないかたちでの不均衡を生み出すこともあります。

たとえば有力な政治家や財界人、富豪であるユーザーに対してでも、一般人は対等にリプライをしたり、引用リツイートをする事ができます。しかし、一般人がこぞって特定の有力者を批判するような状況になると、多くの人間が一人を袋叩きにしているという構図が生まれることになります。

言い換えるならば、社会関係上での強者／弱者、またはマイノリティ／マジョリティの区分とは必ずしも合致しないかたちで、**B**な批判が特定の対象に向けられるということです。社会的にマイノリティに属している、もしくはマイノリティに親和的な立場をとるユーザーが、ソーシャルメディアのなかでは数にものを言わせてマジョリティの一員を**C**に批判し、沈黙させるということすらも生じます。ブロックされているなどの例外はあるにせよ、相手がユーザーなら誰であれアプローチできるという対等性によって、一对多数という構図が簡単に成立してしまうのです。

（津田正太郎『ネットはなぜいつも揉めているのか』筑摩書房）

*1「ソーシャルメディア」の「ソーシャル」とは「社会的な」という意味です。

*2 マイノリティ……少数派。

*3 マジョリティ……多数派。

*4 バッシング……非難すること。

*5 リプライ……ツイッター上で他人の書き込みに返信すること。また、引用リツイートとは他人の書き込みを引用して書き込むこと。

【文章Ⅱ】

*6 えんせい

親ガチャ的厭世観とは、苦境に陥った人々が、自分の人生を理解するために選択する、一つの宿命論です。自分が偶然に生まれてきた家庭環境によって、その後の人生がどのようなものであるかが完全に決定されている、という考え方であり、それに従う限り、出生時の条件の影響を後から変えることはできません。

そのため、苦境に陥った人は、生まれた家庭によってその苦境に陥ることがあらかじめ決定されていたのであり、それを変えることができなかったのは、自分のせいではない、と考えるようになります。

このような厭世観が普及した背景には、経済格差の固定化などによって、自分の人生を自分で変えられるという自信が私たちから失われていった、という社会的な情勢の変化が指摘されています。どうあがいても自分の人生を好転させられない状況が、ある種の宿命論を誘発するのです。

しかし、それは同時に、今後も決して自分の人生を好転させることができない、と自分自身に思い込ませることになりますし、より深い精神的な苦境、人生への絶望が引き起こされる可能性もあります。

この意味で、親ガチャ的厭世観を考えるとときには、次のような二つの視点を携えていく必要があります。

第一に、それは苦境に陥った人々が、自分の苦境を理解するために選び取るものだ、ということです。親ガチャ的厭世観の根本的な問題は、その人にそう考えさせ、そう考えでもしなければ生きていくことさえままならなくさせている、苦境のほうにあるのです。

そうした苦境を解決することなしに、親ガチャ的厭世観を克服することはできません。まして、それを個人の性格へと矮小化することは、問題の解決を困難にするだけではなく、苦しんでいる人に非情な自己責任論を突き付け、さらなる追い討ちをかけることになるでしょう。

第二に、一方で、親ガチャ的厭世観を取ること自体が、新たな苦境を呼び起こす可能性もある、ということです。この厭世観を取らなければ決して陥ることのなかった、新たな絶望をもたらしうるからです。だからこそ、人々はやはり親ガチャ的厭世観から解放されなければなりません。それは、今ある苦しみを癒してくれるものではなく、自分自身をさらに毒し、さらに追い詰めていく人生観だからです。

（戸谷洋志『親ガチャの哲学』新潮社）

*6 厭世観……悲観的に人生や世の中を考えること。

*7 矮小化……問題を過小にとらえること。

問一

A に入ることはとして最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 自由な存在である
- イ 対等な地位にない
- ウ 暴言をいとわない
- エ 親の責任である
- オ 優劣は存在しない

問二

ぼう線部①「見ず知らずの匿名アカウントよりも、有名政治家や芸能人のアカウントをフォローする」のはどのような意識の表れですか。「発言」ということばを用いて三十五字以内で説明しなさい。解答らんは解答案紙のウラ面です。

問三

ぼう線部②「ソーシャルメディア上でどのような問題を引き起こすのか」とありますが、「問題」の説明として最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 世代をまたいで経済的な格差が温存された結果、ソーシャルメディアにおいても格差を認めるような考え方が一般的なものになったこと。
- イ 現実の世の中にはさまざまな立場の違いや不公平が存在しており、日本がかつてとは異なり格差が当たり前に存在する社会になったこと。
- ウ 子どもが貧困状態に陥っているという問題がテレビなどで報じられても、ソーシャルメディアではさしたる関心が寄せられなかったこと。
- エ 自分の力で自分の人生を変えられるという自信が人々から失われた結果、ある種の宿命論が広く社会で信じられるようになったこと。
- オ 少数の人々に対して多数の人々が攻撃的な姿勢をとるという構図がソーシャルメディア上でも成立してしまうこと。

問四

B、C に入ることばの組み合わせとして最も適切なものをア～オから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|
| ア | B | 主導的 | C | 主体的 |
| イ | B | 自発的 | C | 自主的 |
| ウ | B | 集合的 | C | 集中的 |
| エ | B | 重点的 | C | 重心的 |
| オ | B | 感情的 | C | 感性的 |

問五

ぼう線部③「二つの視点」とはどのようなものですか。その説明として適切なものをア～カから二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「親ガチャ的厭世観」とは、苦境に陥った人が自分の現状を理解するために、やむにやまれず選び取るものであるという視点。
- イ 「親ガチャ的厭世観」を信じるかは個人の考え方しだいだから、境遇きようぐうをおもんばかって他人が援助えんじょを行う必要はないという視点。
- ウ 「親ガチャ的厭世観」は、自己責任論が主流になっている現代では個人の問題として扱あつかうことが適切かもしれないという視点。
- エ 「親ガチャ的厭世観」によって自分の現状を説明できたとしても、それが新しい絶望をもたらすことがあるという視点。
- オ 「親ガチャ的厭世観」にも、苦境にある人を癒いす効果があるという意味では人生を明るくするきっかけが隠かくれているという視点。

カ 「親ガチャ的厭世観」を取ることによって新たな苦境を呼び起こすことがあっても、それは本人の性格や能力の問題だという視点。

問六 次の先生と生徒A～Eの会話を読み、本文の内容をふまえたものとして最も適切な発言をア～オから選び、記号で答えなさい。

先生——これからみなさんには【文章Ⅰ】の「公共的なコミュニケーション」と、【文章Ⅱ】の「親ガチャ的厭世観」について考えてもらいます。そうそう、「厭世観」というのは、ここでは「悲観的に人生や世の中を考えること」というくらいの意味だと思ってください。

ア 生徒A——悲観的になるっていうのは、自分がどれだけがんばっても人生はよくならないって思いこんじゃうことだと思えます。でも、それは本当は親のせいなんかじゃなくて、本人の努力や性格の問題じゃないかな。「親ガチャ」ってなんでもかんでも親のせいにしすぎて、自分がない感じがする。

イ 生徒B——みんな親のせいになると、たしかに自分のやることや言うことに責任感を持てなくなっちゃうね。でも、だからこそ「公共的なコミュニケーション」がうまくまわるようになるんじゃない。とりあえずみんなが思う通りに意見を出し合うから「公共的」なんですよ。自由でいいじゃない。

ウ 生徒C——「公共的なコミュニケーション」ってみんながそれぞれに責任感をもって意見を出し合うってことじゃないかな。だから、「親ガチャ」みたいな、自分は苦勞をしいこんでるけど、それは自分のせいじゃないっていう考え方とは相性が悪いと思う。責任感が生まれにくいっていうのかな。

エ 生徒D——みんながお互い^{たが}を尊重しあって「公共的なコミュニケーション」をとるなんて、そもそもできないんだよ。【文

章Ⅰ】の筆者だつてはつきりそう言っているよ。人間は生まれついて不平等、それでいいじゃない。だからこそ努力のしがいもあるってものだよ。

オ 生徒E——【文章Ⅱ】の筆者はそう考えてないみたいだ。「親ガチャ的厭世観」にとらわれている人の痛みや苦しさを分かってあげてなきゃいけないし、どうしていったらいいのかを具体的にアドバイスすべきだつて書いてあるよ。そうやって「親ガチャ」の問題を解消して「公共的なコミュニケーション」を築いていくべきじゃないかな。

4

次の問いに答えなさい。解答らんは解答用紙のウラ面です。

二〇二四年七月から新紙幣が発行されました。一万円札には渋沢栄一、五千円札には津田梅子、千円札には北里柴三郎が、それぞれ産業の育成、女性の活躍、科学の発展といった面から日本の近代化に大きく貢献したと考えられ、新紙幣の顔に選ばれました。あなただったら「新しいお札の顔」にだれを選出しますか。具体的に人物名を一名挙げて、その選出理由についてあなたの考えを一二〇字以上、一五〇字以内で書きなさい。

注意事項

- ・ 解答らんの一マス目から書きなさい。
- ・ 段落を作つてはいけません。
- ・ 句読点や記号も一字とし、必ず一つのマス目を使いなさい。
- ・ 漢字で書けるものは漢字で書きなさい。
- ・ 書きことばを使いなさい。

【下書き】

[illegible]

1

問一 解答らんはウㇿ面です。

問一		
問二		
問四		
問五	(1)	(2)
問六	(1)	(2)
問七		

2

問一	
問二	

問三 解答らんはウㇿ面です。

問四	
問五	
問六	
問七	

3

問一	
問二	解答らんはウㇿ面です。

問三	
問四	
問五	
問六	

4

解答らんはウㇿ面です。

1

合	計

2

氏	名

3

受験番号							
------	--	--	--	--	--	--	--

問 1 解答らんはウツ面です。

7

5

順不同

H

✓

(1)

大

(2)

5

(1)

100

(2)

春

✓

問 1

✓

H

順不同

5

解答らんはウツ面です。

7

✓

木

1

問 1

解答らんはウツ面です。

7

5

11

5

3

順不同

解答らんはウツ面です。

合

市

氏

名

受験番号

20

4

(省略)

150 130

4

3

2

1

8

3

問二

意識。 (別解) 発言の内容そのものよりも、誰が発言したかということに重視する意識。

6

2

問三

て 彼 女 は も う 、 僕 と 話 す 気 も な い っ
こ と な ん だ ろ う

各2

1

問一

(4)	庁 舎	(1)	存 亡
(5)	公 衆	(2)	朗 (らが)
		(3)	植 樹